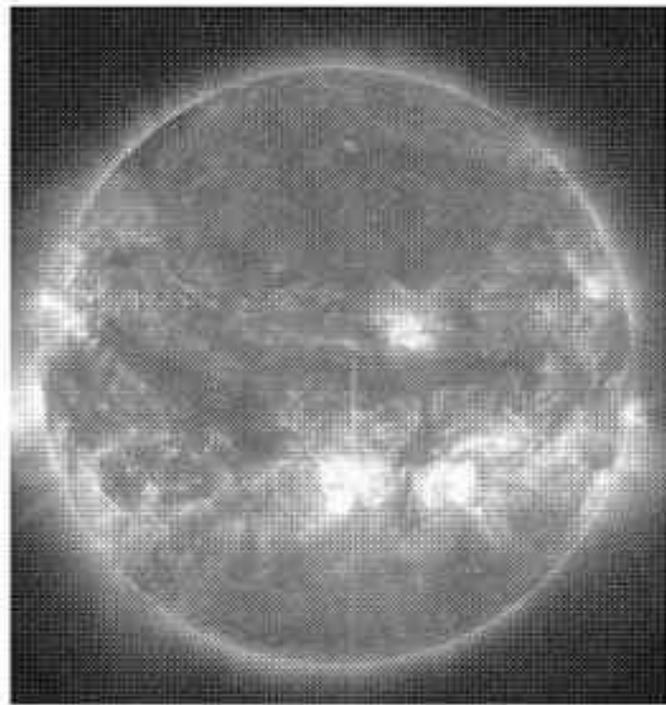


太陽フレア 通信障害恐れ

7年ぶり大規模爆発

太陽表面の大規模な爆発現象「太陽フレア」が2日と3日に発生した。3日のフレアは7年ぶりの規模で通信障害などを引き起こす恐れがあり、太陽活動を監視する情報通信研究機構(NICT)は注意を呼びかけている。

NICTが運営する宇宙天気予報によると、世界標準時3日正午(日本時間同日午後9時)すぎ



太陽フレアは中央下の明るい部分で3日に発生した—
NASA/SDO提供

にX9・0の規模の太陽フレアが発生した。太陽フレアはA、B、C、M、Xの5段階で規模を表し、Xが最大級を示す。NICTの資料による

と、2017年9月に発生したフレア(X9・3)以来、7年ぶりの大規模な活動だという。日本時間2日午前7時ごろにも、X7・1の規模のフレアが発生した。

大規模なフレアが発生すると、大気上層にある電離圏が乱れて通信障害を引き起こす恐れがある。フレアは、X線や紫外線などの電磁波を大量に放出する。地球に届くと、大気上層の電離圏で酸素や窒素の原子から電子を分離させプラズマ化させる「光電離」が発生する。